何でも読もう会

書物名	『本心』	開催日	出席者
作者	平野啓一郎	2024.12.16	5名

- ・2040年の日本が舞台(作者をはじめ団塊の世代ジュニアが70歳になる頃)。その頃は「自由死」が認められている。
- ・主人公 朔也は「自由死」の認定を受けた母の本当の気持ちを探ろうとする。(実際は事故で亡くなった)
- ・そこでヴァチャル・フイギィアにより、死んだ人間を甦させる という技術でヴァチャルが登場する。
- ・生前の母と関係のあった人物を訪ね、その中で、三好彩花と 母が付き合っていた作家の藤原亮治が重要な役割をする。
- ・ラストは主人公が新たな生きる方向を見つけるところで終わる。
- ・母の本心には触れられない。

<主な意見>

- ・いろんな社会問題が次々に登場する。例えば、自由死の問題、 目標を失っている若者問題、中国資本の日本進出、現在の SNS 等のからかい問題、外国人差別問題、経済格差拡大の問題、身 障者と家族関係の問題、高齢者の就業問題、富の世代引継ぎに よる富の問題等々。
- ・本心は読者それぞれが考えるようにと投げ掛けられているようだ。
- ・ 朔也と三好そして後半に出て来るイフィーの関係が興味深かった。
- ・AI の進歩が速く、あらゆる分野に登場するようで恐ろしい感じがした。